第 22 回医療薬学公開シンポジウム開催報告

同志社女子大学薬学部
森田邦彦

平成 18 年 5 月 21 日（日）、同志社・新島記念講堂（京都府京田辺市・同志社女子大学京田辺キャンパス内）において、日本医療薬学会主催、日本病院薬剤師会近畿ブロックならびに日本薬剤師会近畿・大阪ブロック協賛にて標記シンポジウムを開催いたしました。

本年 4 月、「医療技術の高度化、医薬分業の進展等に対応できる高い資質をもつ薬剤師養成」を謳い文句に、薬剤師養成課程 6 年制がいよいよスタートしました。一方、薬学部内に設置された模擬薬局や模擬病室での 1 ヶ月間の事前実習では調剤や注射薬の混合調製などの基本操作はもとより、模擬カルテや模擬患者を擁しての基本技術をも修得した学生に対して、医療現場での 5 ヶ月間の実習期間に何をどう教育し体験させるべきかという、いわば 6 年制教育の成否を左右するであろう実務実習の具体性については未だに十分な議論が尽くされているとは申せません。はたして、提唱されている実務実習カリキュラムのすべての項目を医療現場の先生方が網羅的に指導いただくことは可能なのか？網羅的ではなく、いくつかの項目に特化した指導がむしろ望ましいのか？その方略とは？

以上の事柄に焦点をあて、まずオーガナイザーである私が「薬剤師養成課程 6 年制の概要」と題した基調講演を行った後、病院薬剤師、保険薬局薬剤師、そして大学教員それぞれの立場で登壇いただいた 5 名のシンポジストの先生方に実務実習の確固たる方向性について提言いただくとともに、北海道から鹿児島県に至る広範囲な地域から駆けつけてくださった 289 名の参加者で埋め尽くされたフロアーとの間でも活発な意見交換が繰り拡げられました。

大学教員の立場から平井みどり先生（神戸薬科大学教授）は、「大学薬学部における模擬実務実習のあり方」と題した講演のなかで問題解決型の教育が必要と指摘されました。覚えるだけではなく自ら考える能力や、問題起こったときに判断できる能力、自らの知識や経験を他人に伝える能力などを薬学生が身に付けられるような教育を実施する必要があるとし、PDCA サイクルを薬学生に定着させる教育プログラムが求められることや、学習の動機付けになるような「心を動かす内容をいかに教育に盛り込んでいくか」を今後の課題として提言されました。

病院薬剤師の立場から名徳倫明先生（市立池田病院副薬剤部長）は、大学の模擬薬局と医療現場で行われる実習は大きく異なるとされ、医療現場での行為のすべては患者の容態に反映されるという責任感を実習生は学ぶ必要があるとの見解を、注射薬混合調製業務を例示しながら展開されました。

同様に、安田公夫先生（羽島市民病院薬剤部長）も、大学ではけっして体得できない医療倫理観を身に付けることが医療現場での実習の根幹であることを強調されました。実際、羽島市民病院で実施中の実務実習では、院内各部署の協力の下に手術室、内視鏡検査、MRI、CT、人工透析、理学療法、医事、心理療法、医療情報などのあらゆる視点から病院での医療を実習生に体感してもらっている点を披露され、このような病院を挙げての指導が使命感や倫理観の醸成に役立つとの見解を述べられました。その一方で、現在実施されている早期体験学習は「単なる遠足のようなもの」との苦言を述べられ、医療人としての真剣さに触れることができるよう、より長期間の体験学習の導入が必要と提言されました。

保険薬局経営者であり、医師でもある狭間研至先生（ファルメディコ株式会社取締役）は、6 年制教育を受けた学生が薬剤師業務に従事する頃には、予防医学や在宅・介護施設での医療、補完代替医療の進展が見込まれるとし、これらに薬局薬剤師が関わることを前提とした実務教育の必要性を強調されました。

保険薬局薬剤師の立場から、桑原泰則先生（たんぽぽ薬局株式会社）は、病院と地域の薬局が連携した実習のあり方を提言されるとともに、実務実習指導薬剤師の認定のあり方にも言及され、日本薬剤師会主導型の研修以外でも柔軟な認定を考慮することで、指導薬剤師の裾野を広げる施策を講ずる局面に来ているのではないかと指摘されました。

オーガナイザーとして私は、大学の模擬薬局や模擬病棟実習室では基本的な技術面の教育を主体とし、医療現場の実習では医療倫理観の醸成を主眼とした“体感”教育を軸とすべきであること、またコアカリキュラムの項目のすべてを網羅的に実施することよりも、それぞれの施設ごとに特徴ある項目を題材として学生が漠然ともっている薬剤師観や医療観を激変させるような指導を心がける必要のあること、以上を本シンポジウムの結論として締めくくりました。

最後に、数々の有益なるご提言を頂戴したシンポジストの先生方をはじめ、スムースな進行を心がけていただいた座長役の橋詰勉先生（京都薬科大学助教授）ならびに活発な討論に参画くださったフロアーの多くの先生方に、深甚なる謝意を表するものであります。

日本医療薬学会第 22 回公開シンポジウム
「薬学教育 6 年制における実務実習のあり方を考える」

日時　：平成 18 年 5 月 21 日（日）14:00～17:00
会場　：同志社新島記念講堂
（京田辺市興戸同志社女子大学京田辺キャンパス内）
主催　：日本医療薬学会
協賛　：日本病院薬剤師会近畿ブロック、日本薬剤師会近畿・大阪ブロック
参加費　：学会員・非学会員とも 500 円
オーガナイザー：森田邦彦（同志社女子大学薬学部臨床薬剤学）

12:30～13:30　同志社女子大学薬学棟（憩水館）模擬薬局・模擬病棟実習室見学会
14:00　開会の辞
14:05～14:45　座長：京都薬科大学橋詰勉
基調講演「薬剤師養成課程 6 年制の概要」
同志社女子大学薬学部森田邦彦
大学薬学部における模擬実務実習のあり方神戸薬科大学平井みどり
病院薬剤部における実務実習のあり方
～注射剤業務を中心として～市立池田病院名徳倫明

14:45～15:30　座長:同志社女子大学薬学部森田邦彦
病院薬剤部における実務実習のあり方
～生命倫理、医療倫理、薬剤師倫理を身につけさせるために～
羽島市民病院安田公夫
保険薬局における薬学実習の目指すべき方向性
～医薬分業時代に求められる薬剤師実現のために～
ファルメディコ株式会社狭間研至
保険薬局における実務実習のあり方
～社会が求める薬剤師像～　たんぽぽ薬局株式会社桑原泰則
15:45～16:55　パネルディスカッション
16:55　閉会の辞

本シンポジウムは日本医療薬学会・認定薬剤師資格更新研修単位 10 単位
日本病院薬剤師会・生涯研修認定 2 単位
日本薬剤師研修センター集合研修単位 2 単位
の各認定対象です。

事務局:同志社女子大学薬学部臨床薬剤学研究室
成橋和正
TEL:0774-65-8496
E-mail:knaruhas@dwc.doshisha.ac.jp